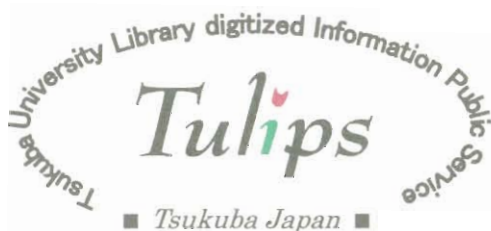


つくばね vol.23no.4

● 目次

- 1 電子図書館サービスの開始にあたって
- 2 電子図書館で提供するデータベースの構成について
- 3 電子図書館で提供する全文情報について
- 5 電子図書館システムの機能
- 6 電子図書館システムの構成
- 9 筑波大学電子図書館の構想
- 10 電子図書館サービス開始までの経緯について
電子図書館サービスの事務管理・運用体制
- 11 電子図書館への期待
電子図書館の可能性
- 12 人間にやさしいシステムを
- 13 電子図書館と著作権
- 15 電子図書館オープニングセレモニーを開催
とびっくす
- 16 掲示板



電子図書館特集

電子図書館サービスの開始にあたって

齋藤 武生

電子図書館的機能の充実という問題は今日の大学図書館がかかえる最も重要な課題の一つです。筑波大学の場合は、平成3年から2期6年にわたる整備計画を進めるなかでこの課題に取り組んできました。

第3期ともいべき新たな発展の時期をむかえるにあたり、本学附属図書館が構想したのは「高度発信型電子図書館システムの構築」という課題でした。この基本構想が高く評価され、このたび文部省の経済支援をうけて電子図書館サービスを開始することになりました。

筑波大学は創設当初から「開かれた大学」をそ

の基本理念の一つとしてきました。附属図書館がめざす電子図書館サービスもまさにこの理念にそったもので、本学が所蔵する貴重な資料だけでなく、学内で生産される学位論文、紀要論文等を電子化して世界に発信していこうとするものです。こうしたサービスが、結果として、教育研究活動を活性化し、本学のいっそうの発展につながることを期待しています。

先導的といわれる本学の電子図書館サービスはスタートしたばかりです。皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

(さいとう・たけお 附属図書館長)

*上の英文名称及びロゴは学内外から募集し、入選したものである。

英文名称：物理学系 宇川彰教授 ロゴ：東京都狛江市 森千尋さん



電子図書館で提供するデータベースの構成について

栗山 正光

1. 全体構成

筑波大学電子図書館は筑波大学附属図書館がWWWを通じて行うサービスであり、附属図書館が提供するWWWサイト全体を電子図書館と総称している。トップページ(図1)に示されるように、提供するデータを大きく「文献情報」、「全文情報」、「リンク集」、「筑波大学附属図書館のご案内」の四つのカテゴリーに分け、その下をさらに幾つかのサブ・カテゴリーに分けている。その他に「新しい情報(What's new)」、「筑波大学電子図書館のページ構成及びページ検索」、「筑波大学電子図書館の著作権及びリンクについて」、「ご意見をお寄せ下さい」といった補足的なページを用意している。以下、各カテゴリー別に内容をご紹介します。



(図1)筑波大学電子図書館トップページ

2. 文献情報

「文献情報」の下は、「学内蔵書検索」、「学外蔵書検索」、「学術論文データベース」、「レファレンスデスク」といった項目に分かれている。「学内蔵書検索」では、OPAC(Online Public Access Catalog=オンライン蔵書目録)が中心となる。OPACはWebブラウザから直接検索ができるWWW版と、文字インターフェースのTelnet版が用意されている。新しいWWW版OPACは、単なる蔵書検索システムではなく、検索結果からリンクをたどって直接原文の表示まで行うことができる、いわば全文情報への入口でもある。このあたりの機能については、本号の「電子図書館の機

能」に詳しいのでご参照いただきたい。この他、雑誌所蔵簡易リスト、予約雑誌目録、電子資料リスト、新着図書リスト、主要文庫・コレクションのリスト、国際交流コーナー・地域情報コーナー配架資料リスト等さまざまな蔵書検索ツールが提供される。

「学外蔵書検索」では、学外の所蔵を調べるのに便利なWWWサイトへのリンクを提供する。文部省学術情報センターのNACSIS Webcatでは全国の大学図書館等の所蔵を調べることができるし、日本書籍総目録では現在日本で流通している書籍の検索が可能である。さらに、Library of Congress(米国議会図書館)、British Library(英国図書館)といった海外の大きな図書館のオンライン目録にもリンクが張ってある。

「学術論文データベース」は、さまざまな分野の学術雑誌等の論文を検索するための手段を提供する。Current Contents(全分野)、MEDLINE(医学)、Biological Abstracts(生物学)、Sociofile(社会学)等の文献情報データベースが、統一されたインターフェースにより検索可能となる予定である。この他、本学で購入中の洋雑誌の目次情報を提供するCAPCAS、本学紀要の目次検索が用意されている。

「レファレンスデスク」では情報や文献の探し方についてのヒントを説明する。

3. 全文情報

電子図書館の中核とも言うべき「全文情報」では、筑波大学収集資料として貴重書等、筑波大学生産資料として特別プロジェクトや科研費による研究成果報告、学位論文、筑波大学の紀要、学事報告書等の全文を電子化して広く学内外に発信する。これらは前述の通りOPACからも検索が可能だが、ここには全文データを持つもののみが集められているので、目的が全文データの閲覧である場合は、こちらから調べていただいた方が速い。

また、附属図書館で契約しているオンラインジャーナルもここから閲覧が可能である。

4. その他

「リンク集」ではインターネット上の研究・教育に役立つサイトを選択して提供する。特に「世

界の図書館」では、全世界の図書館のホームページへのリンクを多数集めており、学外からの評価も高いものである。この他にもWebページの検索に便利なサーチエンジンへのリンク等を用意しており、今後さらに充実させていく予定である。

「筑波大学附属図書館のご案内」は、他の多くのWWWサイトでも提供されている図書館の広報的機能を果たす部分である。お知らせ、附属図書館の概要、利用案内、図書館報「つくばね」、電子展示といったページを用意している。

「新しい情報(What's new)」では、電子図書館に新たに追加されたデータや電子図書館に関するお知らせを掲載する。

「筑波大学電子図書館のページ構成及びページ

検索」では、電子図書館の中から必要な情報を探し出すためページ構成図とキーワードによるページ検索機能を提供している。

また、利用者に対して著作権に関する注意を喚起するため、特に「筑波大学電子図書館の著作権及びリンクについて」というページを設けている。

さらに、「ご意見をお寄せ下さい」というページには、電子図書館に対する意見を投書してもらうためのフォームを用意し、利用者からのフィードバックを期待している。

(くりやま・まさみつ

情報サービス課レファレンス係長)



電子図書館で提供する全文情報について－貴重書を中心に－

篠塚富士男

全文情報の種類

電子図書館で提供する全文情報は、本号の「電子図書館で提供するデータベースの構成について」で述べられているように、筑波大学収集・生産資料と本学が契約しているオンラインジャーナルに大別される。そして、筑波大学収集・生産資料の中は、さらに、①本学が所蔵する貴重書、②本学における研究成果（特別プロジェクト、学内プロジェクト、文部省科学研究費等による研究成果）、③本学が学位を授与した学位論文、④本学の紀要類、⑤本学の学事報告書等の5種類の全文情報に分けられる。

これらの全文情報は、画像データやテキストデータで提供されるが、オンラインジャーナルを除けば、現時点では電子図書館へのデータの登録準備をしている段階であり、登録が完了したのから順次提供していくことになる。

貴重書情報の提供について

以上のような全文情報のうち、貴重書については、すでに約800タイトル、11万3千コマ以上が電子化されており、まずこれらから電子図書館で提供していく。また本学では和洋あわせて約6千タイトルが貴重書に指定されているので、今後も順次電子化し提供する予定である。こうした貴重書を電子図書館に格納し全文を閲覧することがで

ければ、時間・場所を問わずにアクセスできるようになるだけでなく、貴重な資料の保護という点からも意義がある。

貴重書の場合、原本の体裁や文字の書体、配列等に重要な意味があることが多いので、原則として画像データで全文情報を提供することになる。また、必要に応じ、釈文等のテキストデータを付加するとともに、目録情報や解題、電子展示等へのリンクもはり、全文情報のみにとどまらない総体としての貴重書情報を提供する予定である。

それでは、電子化された貴重書の中から、主要な3つのコレクションの内容について具体的にみていくことにしたい。

ベッソン・コレクション

パリのマックス・ベッソンが収集した16～17世紀の日欧関係刊行書約380点から成るコレクション。キリシタン関係の文献を主とし、海外キリシタン版と呼ばれる稀覯書も含まれている。昭和54年度に大型コレクションとして購入したもの。現在までに約360タイトル、6万コマが電子化されている。

電子図書館のトップページから、中央図書館貴重書展示室で行った特別展・常設展の内容を電子化した「電子展示」のページをたどることができるが、この電子展示の中の一つとして「特別展：

天正少年使節と『原マルチノの演説』のページがある。これは、中央図書館新館の増築を記念して平成7（1995）年6月に開催したものであるが、この特別展で展示した資料の中心となったのがこのベッソン・コレクションであり、特別展のタイトルにもなっている『原マルチノの演説』（日本人が印刷した初めての活版印刷物であり世界で4冊しか所在が知られていない稀本）もこのコレクションに含まれている。

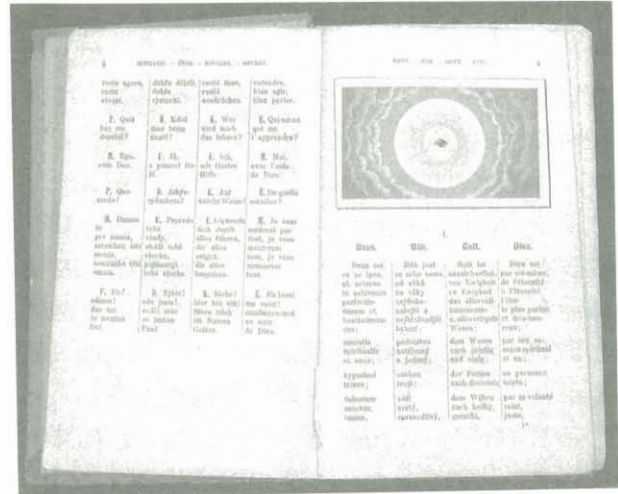
本コレクションについては、本学歴史・人類学系の大濱徹也先生が「ベッソン・コレクション覚書」と題した解説を特別展の目録に書かれており、これは電子展示でも読むことができる。また、以下の『つくばね』の各号にも解説や関連記事がある。

- ・シリーズ資料探訪4 ベッソン・コレクション（6巻2号，1980年）
- ・シリーズ資料探訪39 『原マルチノの演説』—キリシタン版の魅力（19巻3号，1993年）
- ・特別展「天正少年使節と『原マルチノの演説』」（21巻1/2号，1995年）

コメニウス文庫

東京教育大学教授梅根悟博士が教育大退官記念に寄贈したチェコの教育学者コメニウスに関する資料236点から成るコレクション。昭和42（1967）年に受け入れたもので、コメニウス関係のコレクションとしては世界的にも有数のものであるが、現在までに約140タイトル、1万8千コマが電子化されている。

本文庫には、コメニウスの著作の中でも最もよく知られている『世界図会』が6種類（1746年ニュルンベルク版，1792年ウィーン版等）含まれているほか、『言語入門』が4種類（1661年アムステルダム版等）、『現世の迷路と魂の天国』が10種類（1809年プラハ版等）含まれるなど、異本のコレクションも充実しており、またコメニウスの著作のみならず伝記等各種の参考文献も含まれている。



Orbis Pictus（世界図会）1883年プラハ版

本文庫については、本学教育学系の山内芳文先生が『つくばね』18巻2号（1992年）に「コメニウス生誕400年と『コメニウス文庫』」を寄稿されている。

イギリス法制史コレクション

15世紀以降のイギリスの法令集，判例集，研究書約350冊から成るコレクション。平成3年度に大型コレクションとして購入したものであるが、この中で貴重書扱いになっている96タイトル，約1万5千コマが電子化されている。

本コレクションの内容はスコットランド法関連文献（法令集，判例集，百科全書，研究書等）と英国議会法令の2種類に大別される。法体系上，イングランド法は英米法系に属し，スコットランド法は大陸法系に属する。こうした意味で，本コレクションは，イングランド法とスコットランド法に関する個別の法制度研究や比較法研究の貴重な資料であるが，広く近代イギリスの歴史，政治，社会経済史の研究にとっても重要な資料である。

本コレクションについては，本学社会科学系（当時）の沖野眞已先生が『つくばね』18巻3号（1992年）に「シリーズ資料探訪35 英国法制史コレクション」を寄稿されている。

（しのづか・ふじお
情報サービス課主任専門職員）



電子図書館システムの機能

平岡 博

機能の特徴

この電子図書館システムの最も重要な機能は、貴重書、学位論文、研究報告、紀要等の原文情報をOPAC（オンライン蔵書目録）とリンクして検索できることである。利用者は、図書館が所蔵している資料をOPACで包括的に検索でき、さらに、原文が電子化されているものについては、OPACの検索結果から直接原文を表示させることができる。もちろん、筑波大学電子図書館のWWWページから全文情報のみを対象にして求める文献にアクセスする方法も提供している。

また、ユーザインタフェースとしてWWWを採用しているため、ネットワークに接続された標準的なパソコン環境で、世界中どこからでも24時間アクセスすることができる。

このため、今回の電子図書館システムの導入に伴ってWWW版のOPACがバージョンアップされ、機能が大幅に強化される。従来の検索機能に原文情報へのリンク機能が追加されることはもちろんであるが、検索機能そのものも増強される。また、これまでtelnet版でしかできなかった貸出予約なども可能になる。

通常、WWWのサーバとの接続は1回ごとに通信をやり直す静的な接続方法が採られている。この電子図書館システムでは、検索履歴機能やブックマーク機能などを実現するために、一度接続したら終了するまで検索の状態を覚えておくような仕掛けになっている。ただし、終了手続きを踏まずに終了する場合も考えられるため、一定時間何の通信も無い場合には自動的に終了するようになっている。

検索機能

最初に表示される画面はいたってシンプルである。利用者は検索条件として思いつく言葉を入力するだけでよい。

検索の範囲として、書誌情報に加え、紀要の目次、原文の抄録や全文を指定することができるようになる。従来のOPACと同様に書誌情報から検索できるだけでなく、全文が登録されているものについては、全文に含まれている言葉からも同時に検索することができる。

もし、タイトルや著者名、出版社など細かく指定して検索したい場合には、フィールドごとに検索キーの入力欄を設けた検索画面も用意されている。また、キーボード操作に慣れている上級者は入力フィールドの移動などのマウス操作に煩わされること無く、複雑な条件の検索式を一行に入力して検索することも可能である。

検索機能のもう一つの特徴は、検索履歴が利用できることである。検索を行うごとに検索履歴が保存され、直前の数件の検索条件とヒット件数が検索画面に表示される。条件をさらに絞り込んで検索を続ける場合に、この検索履歴を利用することができる。また、複数の検索履歴をかけ合わせて新しい検索結果を得ることもできる。表示する検索履歴の件数は利用者が変更することができる。

検索はこれまでと同様に、文字列の部分一致検索で実行されるため、特に日本語の場合などは単語の切れ目を意識せずにキーワードを入力することができる。しかし、欠点として、外国語の場合にノイズが多くなるという問題があった。今回は、単語検索の機能が付加される。今までのように、ある単語の最後の部分と次に続く単語の最初の部分をつないだ文字列がたまたま検索語に一致すると、関係の無い資料までヒットするという問題は解消されることになる。

検索結果の表示

検索結果は図書、雑誌、論文ごとにそれぞれ一覧表示される。論文は今回追加されたカテゴリであり、紀要に含まれるそれぞれの記事単位で検索条件に合致するものがあれば表示される。一覧表示は、表示する件数と表示の順序を利用者が変更することができる。

また、一覧表示では簡略表示と全表示を選択することができる。簡略表示は簡略書誌のみの表示であるが、全表示では書誌の表示形式や所蔵情報の表示を選択することができる。データをダウンロードして加工し、自分用のリストを作成する場合などに全表示が便利である。一覧表示には原文情報及び目次へのリンクを示すアイコンがついているので、直接原文や目次へ飛ぶことができる。

一覧表示で、1件を選ぶと目録情報表示画面になり、書誌情報と所蔵情報が詳細表示される。書誌の詳細情報のうち著者情報や件名、雑誌の変遷誌名などにはリンクが張られ、これを選択することにより、検索画面に戻ることも無く同一の著者や件名をもつ資料を検索したり、変遷前誌・後誌などへ飛んだりすることができる。また、所蔵情報には貸出情報が表示され、この画面で貸出予約を行うことができる。

論文の場合には一覧表示で選んだ論文の書誌情報が論文詳細情報画面に表示される。抄録がある場合にはこの画面に表示される。掲載誌にリンクが張られているのでその雑誌の目録情報へ飛ぶことができる。

ブックマーク機能

便利な機能として、ブックマーク機能がある。ブックマークはWWWのブラウザなどで既におなじみであるが、それと同様にヒットした資料のうち必要なものを記憶させておく機能である。検索結果の一覧表示画面でこれかと思う資料に印をつけてブックマークに追加することができる。ブックマーク画面では、ブックマークに登録された資料の一覧を見ることができる。表示も簡略表示と詳細表示が可能である。もちろん、原文や目次へ飛ぶこともできる。

目次表示

それぞれの検索結果表示画面についている目次

へのアイコンを選択すると目次表示画面があらわれる。雑誌の各号に掲載されている記事の一覧をここで見るができる。各記事の論文名、著者、掲載ページが表示されており、ここから記事を特定して、論文詳細情報や原文情報を表示することができる。本学の紀要等については以前から目次データを作成しており、今後も最新号が到着するたびにデータを入力する予定である。

原文情報表示

原文情報へのアイコンを選択した場合には、記事の原文を見ることができる。原文は画像データやフルテキストなどで提供される。画像データの場合には現在表示されているページの画像の上に前後数ページのサムネイル画像（縮小した画像）が表示され、次に表示したいページをそこから指定できる。また、ページ番号を指定してそのページを表示することもできる。雑誌の場合には別の巻号の特定のページへ飛ぶこともできる。

おわりに

現在、筑波大学電子図書館のWWWページでは試行として全文を含む蔵書検索機能が提供されている。そこでは、ここに紹介した全ての機能が使えるわけではないが、間もなく正式に公開されるバージョンでは筑波大学電子図書館の中核として、これらの機能が提供される予定である。

(ひらおか・ひろし

情報システム課和書データベース係長)



電子図書館システムの構成

岡部 幸祐

平成10年の1月に筑波大学電子図書館システムが導入されました。

このシステムは、筑波大学が所蔵する貴重図書、紀要及び学位論文、研究成果報告等本学で生産された資料の全文を広く学内外に発信することができます。

発信する全文情報は、画像または文字データとして電子化され、蔵書目録(OPAC)から検索し、閲覧できるようになっています。

既に稼動している図書館業務システムと今回導入されたシステムは有機的に統合され、筑波大学電子図書館システムは以下のような構成となりました。

1. 原文データベースサーバシステム*
 - 1) 画像蓄積サーバ
 - 2) 全文蓄積/検索サーバ
2. CD-ROMデータベース統合検索システム*
3. NSCDNet
4. CA on CD
5. デジタルビデオ・システム*
 - 1) ビデオサーバシステム
 - 2) 利用者用コンピュータシステム
6. 業務システム
7. データ入力・編集システム*
 - 1) データ入力・編集サーバ

筑波大学電子図書館システム構成図



- 2) データ入力・編集用ワークステーション
- 3) データ入力・編集用パーソナルコンピュータ
- 4) データ入力・編集用機器
- 8. 利用者用コンピュータシステム*

*は新規導入

筑波大学電子図書館システムの中で今回新たに導入されたシステムについて、少し詳しくみましょう。

1. 原文データベースサーバシステム

原文データベースサーバシステムは2台の画像蓄積サーバと1台の全文蓄積サーバからなります。全文データは画像イメージ情報または全文テキスト情報、その他の形式の情報としてこのサーバシステムに蓄積され、提供されます。

1) 画像蓄積サーバ

サンマイクロシステムズのUltra Enterprise 3000が2台、サーバマシンとして使われています。主記憶容量はそれぞれ2GB、CPUには250MHzのUltraSPARCプロセッサが4個ずつ搭載され、高速なデータ処理が可能となっています。外部記憶装置には126GBの記憶容量を持つディスク・アレイがそれぞれに接続されています。40GBの内蔵ハードディスクと合わせ2台で約330GBもの記憶容量を持つことになります。その他に500枚収容可能なCD-ROMチェンジャーも接続されています。

このサーバには原文画像情報を150万ページ格納することができます。

2) 全文蓄積・検索サーバ

同じくサンマイクロシステムズのUltra Enterprise 3000が1台サーバマシンとして使われます。主記憶容量は同じく2GBあり、高速な検索を可能とするためCPUには250MHzのUltra SPARCプロセッサを6個搭載しています。外部記憶装置

には内蔵40GBのハードディスクの他、126GBの記憶容量を持つディスク・アレイが1台接続されています。

このサーバには40億バイトの全文文字情報が格納できます。同時に電子図書館の検索システムもこのサーバに持っています。図書・雑誌の書誌、目次情報等を検索キーで検索し、リンクされている全文イメージ情報を表示します。

2. CD-ROMデータベース統合検索システム

いままで、個別に利用していたいくつかの市販2次情報CD-ROMを統合して検索できるシステムです。サーバにはサンマイクロシステムズのUltra Enterprise 2を使用し、接続された151.2GBのディスク・アレイにデータを格納し、MEDLINE、Current Contents、雑誌記事索引等をそれぞれのデータベースを意識せず統合されたインタフェースで利用できます。

3. デジタルビデオ・システム

デジタルビデオ・システムは動画像をデジタルデータとして蓄積し、送信するサーバと、そのデータを再生する専用のパーソナルコンピュータで構成されます。

1) ビデオサーバシステム

サンマイクロシステムズのUltra 2 Model2200に54.6GBの記憶容量のマルチディスクパックを3台接続しています。このハードディスクに動画像データを格納し、専用のパーソナルコンピュータからの要求によりデータを送信し、MPEG2の高画質動画像がみられます。

2) 利用者用コンピュータシステム

MPEG2動画像を再生する機能を搭載した、ビデオサーバシステム専用のパーソナルコンピュータを中央図書館新館2階に5台導入しました。

4. データ入力・編集システム

登録データの入力・編集作業を行なうためのシステムで、サーバ、ワークステーション、パーソナルコンピュータ及びスキャナ等の周辺機器からなります。

1) データ入力・編集サーバ

電子図書館システムに登録される様々なデータについて事前の処理を行ったり、電子図書館に追加される機能のテスト等をこのサーバで行います。

2) データ入力・編集用ワークステーション

登録される資料を電子化し登録する作業をこのワークステーションで行います。カラー、モノクロのスキャナ等入力装置が接続されています。

3) データ入力・編集用パーソナルコンピュータ

冊子体の資料を上向きに広げたまますキャニングできるスキャナやフィルムスキャナ等の入力装置がこのパーソナルコンピュータに接続されています。

4) データ入力・編集用機器

冊子体資料は画像データとして電子図書館システムに登録されます。この作業のためにカラー、モノクロのスキャナを始め、冊子を上向きのまま取り込めるフェイスアップ方式イメージスキャナ等が用意されています。その他スキャニングできない大型の資料や巻物、版木等にも対応できるよ

うにデジタルカメラやフィルムスキャナ等の機器も用意されています。

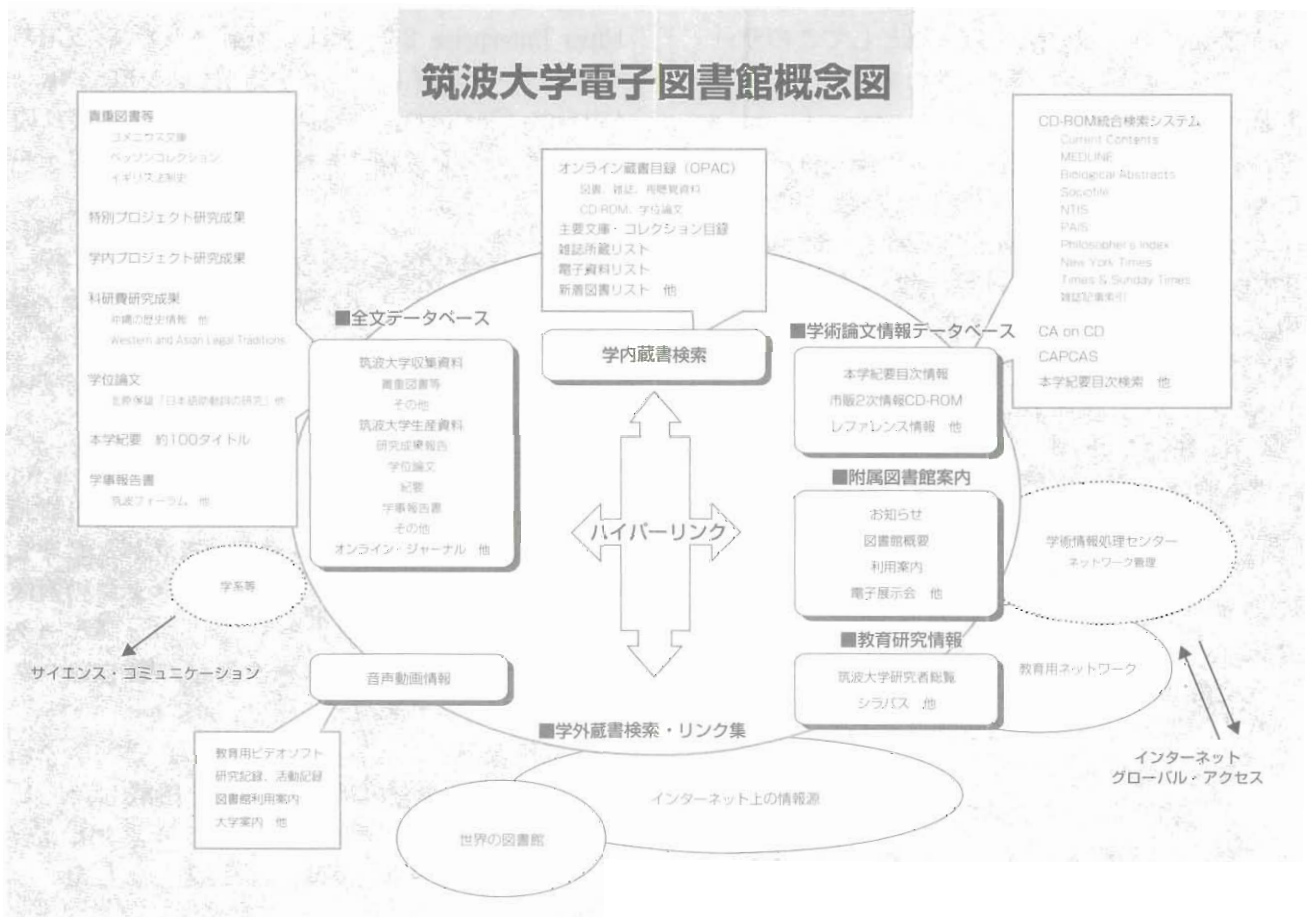
5. 利用者用コンピュータシステム

電子図書館システムをより有効に利用できるように高性能のパーソナルコンピュータを中央、体育、医学、大塚の各図書館合わせて100台導入しました。WWWブラウザがインストールされており、筑波大学電子図書館はこのブラウザから利用できます。利用者用コンピュータにはその他telnetのサービスも用意されています。図書館内にはこの他に既設のパーソナルコンピュータ約80台と教育用計算機システムのパーソナルコンピュータ約60台とが配置され自由に利用できます。

筑波大学電子図書館では、この他NSCDNetでのCD-ROMデータベースネットワーク提供サービスやCA on CD等のサービスも合わせて行われます。一部は学内からのみのサービスとなりますが、ネットワークに接続された標準的なコンピュータから原則的に24時間利用することができます。現在はまだ、システムの運用準備、データ整備等の作業中です。まもなく本稼動する予定です。

(おかべ・こうすけ

情報システム課システム管理係長)



筑波大学電子図書館の構想

森 茜

「筑波大学電子図書館」は、筑波大学附属図書館が、電子的な技術と手段によって、学内はもとより広く学外に提供する図書館サービスの総体を指す名称です。

これによって、利用者は、インターネットに繋がる標準的なコンピュータ環境に接続されたコンピュータ端末から、24時間、いつでもどこからでも、筑波大学図書館が発信する貴重な情報にアクセスすることができます。

筑波大学電子図書館の最も重要な構成要素となるものが、全文データベースです。利用者は、従来ならば、筑波大学に赴かなければ見ることのできなかつた様々な国際的な貴重図書を読覧できるようになります。たとえば、ルソーの著した『エミール』の初版本を美しい口絵とともに読覧できます。また、従来ならば、限られた範囲にしか配布されていなかった筑波大学で生産された様々な研究成果に容易に触れることができます。筑波大学では創設以来、学内外を横断的に組織した学際的なプロジェクト研究が活発で、優れた研究成果を多数生産してきました。科学研究費による各種の研究活動も盛んです。たとえば、科研費特別研究「沖縄の歴史情報」等では、全国に散在する膨大な関連文献が電子的なディレクトリに導かれて読覧できる予定です。さらに、萌芽的な研究に関心のある方には筑波大学学位論文が役立つでしょう。全学で100タイトル以上刊行されている本学研究紀要の全文データも予定されています。

このように、貴重図書の他、筑波大学の研究成果を広く世界に発信していくのが、筑波大学電子図書館の最も大きな特色です。

しかも、これらの全文データは、オンライン蔵書目録(OPAC)と有機的にリンクされています。筑波大学附属図書館は、電子図書館の導入に際し、OPACの考え方を整理し、従来は図書・雑誌しか収録されていなかったOPACに、視聴覚資料・学位論文・電子資料など、形態の異なる資料の書誌情報をも統合的に取り扱えるようにしました。その上で、OPACの書誌情報データと全文データベース情報にハイパーリンクを施してあり

ます。そうすることによって、利用者は、OPACをひけば、その資料の所在場所や形態などを知ること、電子化されているかどうか、あるいは、電子情報だけなのかどうかなどが一目でわかり、電子化されていれば、アイコンをクリックするだけで、すぐに全文を読むことができます。ハイパーリンクにより、情報探索上、極めて便宜に設計されています。筑波大学附属図書館は、昭和52年以來、受入図書の全てをOPACに登録しており、今やその登録は、蔵書195万冊中110万件です。現在は全文データが少ないので、電子資料リストや全文データ検索の方が迅速ですが、いずれOPACからのリンクが効を奏するでしょう。

学術論文情報データベースとのリンクもあります。学術論文情報データベースは、学術雑誌や紀要などに掲載された記事について、論文単位に書誌情報をデータベース化したもので、研究・学習活動では不可欠のツールです。そのうち本学刊行紀要は、図書館創設以来、目次情報をデータベース化してきましたので、それと全文データベースの紀要情報にリンクを施しました。研究者が必要とする学術論文情報の多くは、市販のCD-ROMによっています。図書館では、過去2期6年にわたる図書館電子化推進計画の中で、Current ContentsやMEDLINEなど20タイトルを越えるCD-ROMを整備してきました。電子図書館の導入に際し、これらのCD-ROMを統合的に検索できるようなシステムを導入し、電子図書館サービスの一環としてWWW上で提供します。但し、このCD-ROM統合検索は、著作権等の関係で学内のみのサービスとなります。

さらに、国内・国外の学外蔵書検索や様々なサーチエンジンにアイコン一つで飛べるようなリンクも用意します。

このように、「筑波大学電子図書館」は、学内蔵書検索をキーステーションにして、基幹データベースである全文データベースや学術論文情報データベースなどに自在にナビゲートのできる総合的・統合的な図書館サービスを目指しています。

(もり・あかね 図書館部長)



電子図書館サービス開始までの経緯について

三池慎三郎

本学附属図書館は、開学当初から電子化を基本方針とし、昭和62年度大型計算機ネットワークにより全学にオンライン蔵書検索サービスを開始した（蔵書約120万冊中、図書約30万冊）。平成3年度に評議会の下に図書館電子化専門委員会及び電子図書館システム研究班を設置し、第Ⅰ期電子図書館システム整備計画（平成3～5年度）を策定した。図書館内にLANを敷設し、ADONIS（医学生物学分野の雑誌約430誌の全文）をスタンドアロンで、BIOSIS（生物学文献情報）及びMEDLINE（医学文献情報）を図書館内ネットワーク上で提供した。平成4年度には図書館専用計算機システムを導入し、翌年度には、インターネット上で蔵書検索サービスを開始した（蔵書180万冊中、図書約90万冊、雑誌約1万6千種）。平成6年度には、それまで評議会の下にあった委員会を電子化推進特別委員会として附属図書館長の下に移行し、第Ⅱ期電子図書館システム整備計画（平成6～8年度）を策定した。BIOSIS、MEDLINE以外にCurrent Contents（外国雑誌目次速報）、New

York Times（新聞の全文）等のデータベースを学内ネットワークにより提供を開始した。また、新館完成を記念して電子展示「天正少年使節と原マルチノの演説」をインターネット上で公開した。この年にはオンライン蔵書目録データが100万件を超えた。平成8年度には、図書館専用計算機システムを更新し、UNIXのシステム（LIMEDIO）を導入した。また、科学研究費により旧東京教育大学蔵書の目録データ入力を開始（平成8～10年度の3年計画、約20万冊）するとともに、貴重書約400冊全文データベース（画像）を作成した。平成10年1月から本学の研究成果を全世界に向けて発信する電子図書館の稼動にあたり、電子図書館のサービス、データベースの登録及び運用に関する問題を対処するために、附属図書館運営委員会の下に電子図書館専門委員会を設置した。この電子図書館サービスにより筑波大学の教育・研究活動と図書館活動が一層活性化されることを期待している。

（みいけ・しんざぶろう 情報システム課長）



電子図書館サービスの事務管理・運用体制

内藤 英雄

図書館部では、電子図書館サービスの事務的な管理・運用のための基本的なルールを部長裁定で定めた。

このルールでは、新規内容のWWWページを作成する場合、全体の構成を変更する場合、あるいはページ内容を大幅に変更する場合は、発案者は、部内用ページに試作品を提示したうえで、図書館内のネットニュースの中のtulips.wwwというニュースグループに提案をすることとしている。

ニュースグループの中で十分に意見を出し合った結果、係長レベルでの合意が得られると、館長、部長、課長、課長補佐、主任専門職員の承認を求める電子メールがそれぞれに送られる。一種の電子決裁である。全員から承認の返信があった時点で該当のページは図書館部内で承認されたものとみなされる。

発案者は、承認が得られたら、試作ページを公

開ページに移す。

また、WWWで提供するページは担当係を明確にすることとし、担当係は担当分のページの内容に責任を持ち、必要に応じてすみやかに修正・更新を行うこととしている。

さらに、利用者の声の受付窓口、技術面の管理、部内研修、全般的な連絡調整などを担当する係をそれぞれ規定していること、個人ページを設けることができる、と明示したうえで、問題がある場合は削除できる、としていること、別に「WWWページ作成のガイドライン」を定めていること、などが特徴である。

「ガイドライン」では「身体障害者に配慮したページ作りを行う。」「スピードの遅いネットワークを使っているユーザーにも配慮したページ作りを行う。」などということも定めている。

（ないとう・ひでお 情報管理課長）



電子図書館への期待

宇川 彰

筑波大学電子図書館が開館のはこびとなった。京都大学電子図書館と並んで、国立大学図書館中での嚆矢を切る事となる。昨今のインターネットの広まりを考えれば、時宜を得た開館であることは言うまでもないが、本学図書館での長年に亘る電子化への取り組み、そして平成3年以來の二期に亘る電子図書館整備計画が実を結んだ。

ところで、電子図書館と聞いて、何を思い浮かべるだろうか。自分の卓上のPCからインターネットを通じて入館する。物理学者としての自分を忘れ、興味の赴くままの探索者となるならば、貴重資料のコーナーにまず目が行くことだろう。British Libraryには、Magna Cartaの原文画像と対訳があった。Beowulfも見つけた。京都大学電子図書館では、源氏物語の中院文庫版。「いづれの御時にか」に始まる懐かしい文章を見ることができる。画像データベース化され、書誌解題とリンクされた貴重資料は、電子図書館のメインメニューの一つだろう。

暫く貴重書で時間をつぶしたら、研究者としての自分を取り戻し、学術雑誌のコーナーへ足を向ける。つい数年前までは、図書館に出向いて、製本された分厚く重い雑誌を書架から降ろし、目当ての論文をコピーするのに結構な時間を割いたものである。ここ数年、物理学の分野では雑誌のon-line化が急激に進んでいる。電子図書館では、

出版元のサーバを訪れて、最新号の目次を見ることも出来れば、画面で論文に目を通して両面プリンターに送れば、研究室に居ながら雑誌そっくりのコピーも手に入る。主要な雑誌はon-line版のサテライトが電子図書館に置かれる日も遠くないかもしれない。

学術論文出版について、物理・数学分野ではもっと先鋭な事態が実現している。米国Los Alamos国立研究所にe-print archiveが1991年以來運営され、最近では各国にそのサテライトが設置されている。このarchiveに、研究者は電子メールを使って自由に論文を登録することができる。論文には登録番号が付され、翌日から世界中の研究者に公開されるし、検索機能を使って過去の論文の検索・ダウンロードも自由である。電子図書館の名にふさわしい、インターネットによる学術情報伝達の革命である。国境を越えた学術情報の集積点としての電子図書館の今後を考える上で、示唆に富む存在ではないだろうか。

コンピュータとインターネットの発達が革命的なものであることは誰もが同意するだろう。その中で、電子図書館の実現できる機能は、まだまだ模索段階にあるように思われる。筑波大学電子図書館でのinnovativeな取り組みを期待したい。

(うかわ・あきら 物理学系教授)



電子図書館の可能性

西原 清一

いよいよ筑波大学の電子図書館(以下、DLと呼ぶ)がスタートすることになった。全国の教育機関の先陣を切って開設される実用を目指したDLであり、筑波大学の一構成員としてたいへん喜ばしいかぎりである。本学では附属図書館創設以來、全学の学術資料の電子化へ向けて関係各位の努力が積み重ねられてきたのであるが、その実績がいままさに実を結ぼうとしているのである。もとよりDLについては駆出しの筆者であるが、この機会に本学の電子図書館の未来についていくつか期待を述べさせていただきたい。

それらは、思いつくままにおおよそ、

- (1) 本学で所蔵・生産される情報の公開
- (2) 一般の人を含む学外への貢献
- (3) 学生が国際性・社会性を学ぶ場

という三つの側面が考えられる。

まず(1)について。貴重書は本学のいわば宝物である。DLはその無料常設展といえる。また、生産される成果の発信はいわば宣伝活動である。つまり筑波大学は全世界へ向けての強力なアピール手段を手にしたわけで、大いに活用したいものである。

次に(2)について。これからは年齢や環境を問わず誰でも学びたいものを学ぶという時代を迎える。とくに地域の自己学習・生涯教育に貢献することは夢のあるDLのテーマである。DLは個人のぜいたくな書齋として愛される可能性を秘めている。

最後に(3)。著作権やプライバシーなど本来はエチケットに属するセンスを身につけておくことは、学生にとって将来の複雑化するであろうコミュニケーション社会において活躍するのに大変重要な教養である。

上の諸点は、振り返ってみれば、大学という

枠を越えて外に向かって開かれているというDL固有の性格に関連している。いま、DLの立ち上げに向けて図書館部の諸氏を始め関係各位の試行錯誤が鋭意進められているところである。散在する電子化情報の有機的結合と対話機能、転送速度、知的財産権の技術的支援など、難しい課題が山積し、生みの苦しみを味わわれているに違いない。DLのあるべき姿を明確にイメージされて、利用者が思わずアクセスしたくなるような設計をしていただけることを期待したい。

(にしはら・せいいち 電子・情報工学系教授)



人間にやさしいシステムを

草薙 裕

本学の図書館が新しい発想での電子化図書館として出発する。大変おめでたいことであるが、私を見る限り、それはハードウェアの充実であり、それに対応するソフトウェアの対応をどう考え、強化するかが電子化図書館が成功するかどうかの鍵を握っていると思う。ハードウェアが発展すれば、システムとしては向上するだろうが、われわれ利用者が人間の発想でそれを使いこなされなければ意味がない。いわばアナログ思考の人間に対して電子図書館がどういうサービスをするのかを考え、実現へ向かって、学内の研究組織の協力が望まれる。

本学の図書館は、開館当初から、文献検索はコンピュータによる検索であった。これにはそれまでカード検索に慣れた者にとってはかなり違和感があった。その最大の理由はいわゆるアナログとデジタルの違いである。狙いが定まっていれば、デジタルは実に効率がいい。ところが、題名にしろ著者名にしろ、うろ覚えの場合、アナログが俄然、力を発揮する。適当に狙いを定め、あとはばらばらとカードを繰ればいい。この「ばらばら」をなんとかコンピュータ検索に取り入れられないものかといつも思う。

研究室のパソコンにインターネットが接続されるようになり、図書館の文献検索が研究室に居ながらにしてできるようになった。しかし、文字コードの問題は面倒だった。複数のコンピュータを介する操作では、それぞれのコンピュータが採

用している文字コードが異なれば文字体系が混乱し、いわゆる文字化けが起こる可能性がある。当時Tulipsの情報を自分のプリンターに出力するプログラムを作ったのを覚えている。この点、最近のインターネットのソフトは文字コードの識別を「自動」で行っているが、必ずしも安心はできない。本学の図書館の新しいシステムでも文字化けが学生の間で混乱を引き起こしていると聞いた。これはシステムの欠陥ではなく、どう設定するかの問題だが、いわば素人に簡単に対処できるかどうか問題である。

欲をいえば検索の方法にも改善の余地がある。著者名のうろ覚えでの検索は無理だし、特定の文献ではなく、目指す分野の文献を探そうというとき、分野のキーワードと文献のキーワードが一致するとは限らない。図書館へ出向いて書架を見ればいいようなものだが、学問が進み新しい学問の分野が現れたり、学際の研究が盛んになると目指す文献がどこの書架にあるのか、必ずしもだれもが的確に把握できるとは限らない。

文字化けはシステム上おこることで、利用者がいつでも対応できるように工夫すればすむ。検索の問題は、キーワード間の意味的リンクなど、「コンピュータによる自然言語理解」の研究を推進して、ぜひ利用者のわがままに対処できる電子図書館の実現を望むものである。

(くさなぎ・ゆたか 文芸・言語学系教授)

電子図書館と著作権

石村 恵子

まだ誕生して間もない電子図書館にとって、その社会的文化的地位の確立を左右すると思われる最も重要な課題のひとつが、電子化された著作物の著作権問題です。

従来より著作物の利用にあたっては、著作権法により、複製権、有線放送権、同一性保持権（著作者の意に反した著作物の変更、切除その他の改変を受けない権利）、氏名表示権等著作者の権利が保護されてきましたが、デジタル化・ネットワーク化技術の進展によって、著作物のコピー、改変、融合、送信等が遥かに容易に飛躍的な量的拡大をもって行えるようになり、著作権制度の見直しが緊急の課題とされてきました。本年1月1日から施行された改正著作権法では、新たに送信可能化権（送信の前段階のアップロード行為に対する権利）が付与され、有線無線を問わず送信可能化権を含めた公衆への送信全体に対する権利を公衆送信権とすることで用語を整理しました。

本学で実施する電子図書館においても、著作権法及び関係法令を遵守し、著作権者の権利を保護しなければならないことは言うまでもありません。従って、電子図書館で公開する資料が保護著作物（著作者の死後50年以内の著作物）であれば、著作権者から利用の許可を得る必要があります。そこで附属図書館では、電子図書館の本格的稼働に先立ち、本学電子図書館における資料の利用方法について、図書館電子化推進特別委員会及び電子図書館システム研究班において検討を重ねてきました。その検討結果を中間報告書として取りまとめ学内関係者に広く意見を求め、附属図書館運営委員会の審議を経て「筑波大学電子図書館システムにおける著作権処理について」を作成しましたので、その内容を紹介します。

本学電子図書館は学内で収集、生産された著作物を広く迅速に学内外に提供することにより、教育研究活動の一層の促進を図ることを目的としています。従って、著作権者は主に学内の研究者です。これらを勘案し、本学では、以下の著作権処理方式を定めました。

著作権者から著作物を利用する許可を得る方法には、著作権の譲渡と利用許諾という2通り

の方法がありますが、本学では、著作権は著作権者に帰属したまま許諾要件にもとづいて該当資料を利用する、利用許諾の方法に依っています。

また、利用許諾を得るためには、著作物を利用する者が著作権者に許諾を依頼するという方法が現在一般的のようですが、本学では著作物の利用許諾を前提として著作者が電子図書館への登録を申請することとし、「本学紀要等」「学位論文」「本学における研究成果」「学事報告書等」の4種類の申請書を作成しました。著作物の利用方法や利用条件等電子図書館への具体的な登録方法については次頁の「筑波大学電子図書館システムへの登録に関する実施要項」に定めましたが、個々の許諾要件については、申請書の中で個別に規定することができます。例えば、「学位論文」及び「本学における研究成果」では、送信範囲（学内のみか学内外か）と公開範囲（全文か1部あるいは要旨のみか）を申請書の中で選択します。また、紀要等のように1冊に多数の論文が掲載されており著作権者が申請者と異なる場合には、申請前に施した著作権処理の方法を申請書に明記する必要があります。これに関しては現在、本学電子図書館への登録を①投稿規定に明記する、②原稿依頼文書に明記する、③編集会議等で決定する、といった方法で申請されています。

アナログ技術を前提としたこれまでの著作権法の枠には収まり切らない事態が生じていることにもより、電子化された資料について、著作権の侵害にあたる恐れのある行為が昨今頻発しているのも事実です。このため、電子図書館自身が著作権保護を実効化する仕組みを内在する必要に迫られています。例えば、著作権保護のために、複製防止システムや電子透かし、著作権管理情報等の技術が開発されています。こういった技術を積極的に活用し、利用と保護の適切な運用を図ることは、電子図書館にとっての急務です。また、情報化社会における著作権保護について利用者の注意を喚起し続けることも、電子図書館に課せられた必須の任務となるでしょう。

（いしむら・けいこ）

情報システム課電子情報係長

筑波大学電子図書館システムへの登録に関する実施要項

(平成9年12月1日)
附属図書館長裁定

(目的)

1 この実施要項は、次項に規定する筑波大学電子図書館システム（以下「電子図書館」という。）に資料を登録するために必要な基本的事項を定めるものである。

(電子図書館)

2 電子図書館は、筑波大学附属図書館（以下「附属図書館」という。）が、筑波大学（以下「本学」という。）において収集・生産された資料を電子的な手段によって蓄積し、本学をはじめ国内外に提供することにより、教育・学習活動を支援するとともに研究活動の推進を図り、学術研究の一層の振興に貢献することを目的とする。

(登録対象資料)

3 電子図書館への登録対象とする資料は、次のとおりとする。

- (1) 本学が所蔵する貴重書
- (2) 本学における研究成果
 - イ 特別プロジェクト及び学内プロジェクトによる研究成果
 - ロ 文部省科学研究費による研究成果
 - ハ その他本学在籍中の研究成果
- (3) 本学が学位を授与した学位論文
- (4) 本学の紀要類
 - イ 本学が終期を予定せず継続的に発行している研究論文を収載した刊行物
 - ロ その他イに準ずるもの
- (5) 本学の学事報告書等
 - イ 学事報告書
 - ロ 広報資料
- (6) その他電子図書館に登録することが適当なもの

(データの利用内容)

4 附属図書館は、前項に記載した資料を次のとおり利用する。

- (1) 資料の原文情報を電子化し（以下、電子化された情報を「データ」という。）、それらのデータをハードディスクまたはCD-ROM等に蓄積することにより、全文データベースを作成する。
- (2) データは、ネットワーク上の標準的なコンピュータ環境でアクセスできる状態におく。
- (3) データは、附属図書館オンライン蔵書目録(OPAC)等の二次情報データベース等との間にハイパーリンクを張り、統合された情報資源として提供する。

(データの利用条件)

5 附属図書館はデータの利用に際し、次の事項を遵守する。

- (1) 情報の発生元を明示すること。
- (2) 著作物及びその標題の表現を改変しないこと。
- (3) 著作者名及び著作権の表示を行うこと。
- (4) 電子図書館の利用者によるデータの複製（端末機からのプリントアウト、ダウンロード等）は、調査・研究、教育又は学習を目的とする場合に限定することを明示すること。

6 電子図書館によるデータの送信範囲は原則として制限しないこととし、送信範囲を限定する場合については申請書の中で個別に規定する。

7 データは全文公開を原則とし、全文を公開しな

い場合については申請書の中で個別に規定する。

- 8 データの利用についての対価は無償とする。
- 9 附属図書館は、電子図書館の利用者がデータを利用した結果について、その責任を負わない。
(登録の申請)
- 10 電子図書館に資料の登録を希望する者（以下「申請者」という。）は、所定の申請書により附属図書館長に申請し、登録受付を得ることとする。申請書の様式は別に定める。
- 11 学位論文の申請書については学位論文審査願の提出時に併せて提出する。
(著作物の利用許諾等)
- 12 申請者は、附属図書館に対し、前記10項の申請書において著作権法上の諸権利について著作物の利用を認める。具体的な利用許諾の要件については、申請書の中で個別に規定する。
- 13 申請者と著作権者が異なる場合は、申請者は著作権者からの利用許諾を得た上で申請する（著作権者が複数の場合、当該著作物に申請者以外の者が開発したコンピュータ・プログラムが含まれる場合等）。
- 14 当該著作物の利用に際して第三者との紛争が生じることのないよう、申請者はあらかじめ関係者との調整等を行った上で申請する（当該著作物が既に他の出版者から公表される場合等）。
- 15 紀要等においては、掲載する著作物の利用許諾に関する事項を投稿規定等に明記する等、必要な措置を経た上で申請する。
(データの一部訂正、追加又は削除)
- 16 登録されたデータの一部訂正、追加又は削除の必要が生じた場合は、申請者は訂正、追加又は削除理由を付して、データの一部訂正、追加又は削除を申請することができる。
(利用許諾要件の変更)
- 17 登録されたデータの利用許諾要件の変更を希望する場合は、申請者は変更理由を付して、利用許諾要件の変更を申請することができる。
(登録の解除)
- 18 登録されたデータの解除を希望する場合は、申請者は解除理由を付して、登録解除を申請することができる。
- 19 登録されたデータに著作権の侵害等の事実が認められた場合は、附属図書館は解除理由を付して、申請者に登録解除を通知することができる。
(登録の有効期間)
- 20 登録の有効期間は1年間とする。なお、有効期間内に申請者から特に申し出がない場合、有効期間をさらに1年間自動的に延長するものとし、その終了日以降も同様に自動的に延長を繰り返すものとする。有効期間について申し出があった場合については、申請書の中で個別に規定する。
(運営組織)
- 21 電子図書館における登録及び解除等に関する運営組織については別に定めるところによる。
(その他)
- 22 この実施要項に定めるもののほか、電子図書館への登録に関し必要な細目は別に定める。

電子図書館オープニングセレモニーを開催

電子図書館サービス開始にあたり、3月18日（水）に中央図書館において、林一夫文部省学術国際局学術情報課長、猪瀬博学術情報センター所長を来賓にお迎えして、オープニングセレモニーを開催しました。

システム起動手では、来賓の2名の方と本学から江崎玲於奈学長、斎藤武生附属図書館長、緒方邦夫事務局長により電子図書館のスタートアイコンがクリックされ、これにより、今まで試行で提供されていたWWWの電子図書館が名実共に正式に活動を開始しました。



システム起動手に臨む左から斎藤附属図書館長、猪瀬学術情報センター所長、江崎学長、林文部省学術情報課長、緒方事務局長



学長
江崎玲於奈

われわれの図書館は知と文化の殿堂です。筑波大学電子図書館は、本大学における研究成果を電子化し、インターネットを經由して広く世界に発信することを、重要なサービスのひとつとしています。すぐれた研究成果との出会いは、創造的な研究活動を生み出すためには欠かせないことです。世界中の研究者や学生が、この情報を自らの研究活動に大いに参照し、新しい知見を創出してくれることを願っています。また同時にこのシステムは、筑波大学の学術研究活動を外部に向けて提供することでもありますから、筑波大学の研究スタッフにとってもきわめて大きな刺激になります。この電子図書館が筑波大学自身の研究活動を一層活性化させることも、期待します。

また、記念式では、募集されていた電子図書館の英文名称（Tsukuba University Library degitized Information Public Service）とロゴが発表されました。続いて、システム概要やデータベースの内容が画像も豊かに紹介されました。その後、電子図書館のデモンストレーションが行われ、森図書館部長ほかの案内で、参加者一同熱心に観覧しました。

とぴらくす

〔全国〕

平成9年度国立大学附属図書館事務部長会議

1月22日（木）静岡大学の当番で開催されました。
〔協議事項〕○行財政改革に伴う附属図書館事務組織の見直しについて○これからの大学図書館組織について○電子図書館データ登録にかかる著作権処理のあり方について○大学図書館における専門職制のあり方と専門職員の処遇について○ユニバーシティ・アーカイブスの可能性について○図書館予算の確保のための諸方策について○時間外・休日開館要員（非常勤職員）の人数枠について、ほか

〔学内〕

第205回附属図書館運営委員会（12月19日開催）

〔審議事項〕○「筑波大学附属図書館の専門委員会に関する申合せの一部改正について○電子図書

館専門委員会の設置について、ほか

〔報告事項〕○CD-ROMデータベース統合検索用計算機システムの導入について○体育・芸術図書館委員会（第18回）について○医学図書館増改築検討委員会（第1回）について○附属図書館ボランティアとの懇談会について○平成9年度附属図書館防災訓練の実施について○平成9年度司書日本語研修参加者の研修について○中央図書館における利用者用複写機の移動について○附属図書館公開講演会について、ほか

第206回附属図書館運営委員会（1月23日開催）

〔審議事項〕○筑波大学電子図書館のデータベース構成について○筑波大学電子図書館のWWWページの著作権ならびにリンクについて○「筑波大学附属図書館」の英文名称及びロゴの募集について、ほか

〔報告事項〕○電子図書館専門委員会（第1回）について○電子図書館データベース登録への協力依頼等について○WWWによる筑波大学電子図書館サービスの事務管理・運用体制について○附属図書館ボランティア委員会（第9回）について○国際交流計画事業費による海外派遣について、ほか

第207回附属図書館運営委員会（2月20日開催）

〔審議事項〕○平成10年度附属図書館年次計画案の策定について、ほか

〔報告事項〕○蔵書構成専門委員会（第47回）について○筑波大学電子図書館オープニングセレモニーについて、ほか

附属図書館公開講演会を開催

附属図書館公開講演会を1月21日（水）に中央図書館集会室において開催しました。

フランス国立高等研究院宗教学部教授、国文学研究資料館客員教授のハルトムント・O. ロータモンド氏を講師に招き、「明治の日本人が見た西洋と西洋人のイメージー仏教説教本からさぐるー」というテーマで講演が行われました。日本の近代化の過程において仏教関係者が西洋や西洋人をどう見ていたかが豊富なエピソードを交えて紹介されました。学生、教官をはじめ学外からの参加者を含め70名余りが熱心に聴講するとともに活

発な質疑応答が行われました。

平成9年度筑波大学図書館研修会を開催

中央図書館集会室において開催しました。

1月8日（木）には尾城孝一東京工業大学附属図書館情報サービス課雑誌サービス掛長に「イギリスの大学図書館における電子的情報サービスについて」というテーマで、イギリスの電子図書館プログラムeLibにおけるACORN（学生用指定文献の電子的サービス）のプロジェクト及び二次情報データベース供給のしくみ等について講演していただきました。

2月10日（火）には高橋柏京都大学附属図書館事務部長に「京都大学における学術情報関連組織の連携について」というテーマで、総合情報メディアセンター及びKUINS（京都大学統合情報通信システム）を中心に講演していただきました。

また、2月12日（木）には三枝辰男一橋大学附属図書館情報管理課専門員、山田幸彦群馬大学附属図書館情報サービス課長及び山崎好子図書館部情報サービス課課長補佐を講師に、「大学の特色と大学図書館の役割」というテーマで、それぞれの大学の特色を生かした図書館活動について講演していただきました。

いずれも、本学及び近隣の大学の図書館職員等が多数参加し、熱心に聴講するとともに活発な質疑応答が行われ、有意義な研修会となりました。

掲示板

体育・芸術図書館からのお知らせ

体育・芸術図書館の電子化のための環境整備を行うため、3月21日（土）に入館ゲートをラウンジ入口手前に移動しました。このため、ラウンジ及び新聞閲覧コーナーの利用は入館手続き後になります。

また、学生自習室については、環境整備に伴い3月16日（月）より使えなくなりましたが、新聞閲覧コーナーに学生自習室の閲覧機の一部を移動しましたので、今後は新聞閲覧コーナーをご利用ください。

編集室だより

筑波学電子図書館サービスのスタートを機会に紹介のための特集を組みました。

本誌は電子図書館のWWWページでも提供して

おりますので、併せてご覧下さい。

URL <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/>